

大隅諸島種子島から得られたゴンベ科魚類ウイゴンベの幼魚

ジョン ビョル¹・山田守彦²・本村浩之³

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

² 〒 892-0814 鹿児島市本港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館

³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

ゴンベ科魚類 (Cirrhitidae) は 12 属 35 種が知られ (Fricke et al., 2022), そのうち日本国内からは 8 属 15 種が報告されている (本村, 2022). ウイゴンベ属 *Cyprinocirrhites* Tanaka, 1917 にはウイゴンベ *Cyprinocirrhites polyactis* (Bleeker, 1874) の 1 種のみが知られており, 背鰭軟条数が 16-17 であることと尾鰭が深く二叉することによって同科他種と識別される (Randall, 1963; 林・萩原, 2013). ウイゴンベは田中 (1917) によって和歌山県田辺市沖で採集された標本に基づき新属新種 *Cyprinocirrhites ui* として記載された. 種小名 *ui* と和名ウイは採集者である宇井縫蔵氏に因む. 岡田・松原 (1938) は *C. ui* に対して和名ウイゴンベイ, 松原 (1955) は *C. polyactis* (= *C. ui*) に対して和名ウイゴンベイを用いた. その後, Randall (1963) により *C. ui* は *C. polyactis* の新参異名とみなされ, 益田 (1975) と荒賀 (1984) は *C. polyactis* に対してそれぞれ和名ウイゴンベイとウイゴンベを用いた. 以降, 林 (1993, 2000), 林・萩原 (2013), および本村 (2022) などでも *C. polyactis* には和名ウイゴンベが用いられている.

2021 年 12 月 21 日に大隅諸島種子島 (鹿児島県) において, ウイゴンベの幼魚が 1 個体採集された. この標本は種子島における本種の初めての記録であるとともに, 標本に基づく国内における南限記録となるため, その形態の詳細を記載し, ここに報告する.

材料と方法

標本の計数・計測は Randall (1963) にしたがった. 計測は実体顕微鏡 (Leica EZ4) 下でデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位で行い, 計測値は体長と頭長に対する百分率 (%) で示した. 記載には四捨五入して小数点第 1 位までを表記した. 標準体長 (standard length) は体長 (SL) と表記した. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 生鮮時の色彩の記載は, 固定前に撮影された生鮮時のカラー写真 (Fig. 1) に基づきそれぞれ記載した. 本報告で用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM: Kagoshima University Museum) の魚類標本 (KAUM-I) として登録されている.

結果と考察

Cyprinocirrhites polyactis (Bleeker, 1874)

ウイゴンベ

(Fig. 1)

標本 KAUM-I. 165314, 体長 29.5 mm, 頭長 9.2 mm, 鹿児島県熊毛郡南種子町広田漁港沖 (30°26'N, 130°59'E; 志垣水産定置), 水深 22 m, 2021 年 12 月 21 日, 山田守彦.

記載 背鰭条数: X, 16; 臀鰭条数: III, 6; 胸鰭条数 i + 7 + vi; 腹鰭条数 I, 5; 鰓耙数 3+11.

体各部測定値の体長に対する割合 (%): 頭長 31.1; 体高 25.6; 尾柄長 30.1; 尾柄高 13.3; 背鰭

Jeong, B., M. Yamada and H. Motomura. 2022. First record of *Cyprinocirrhites polyactis* (Perciformes: Cirrhitidae) from Tanegashima island, Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 49: 57-60.

✉ BJ: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: reddragon_hp@hotmail.com).

Received: 25 July 2022; published online: 1 August 2022; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_049/049-013.pdf



Fig. 1. Fresh specimen of *Cyprinocirrhites polyactis* (KAUM-I. 165314, 29.5 mm SL) from off Tanegashima island, Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan.

第1棘長 6.1; 背鰭第2棘長 10.9; 背鰭第3棘長 11.8; 背鰭第1軟条長 14.4; 臀鰭第1棘長 9.2; 臀鰭第2棘長 12.8; 臀鰭第3棘長 12.1; 臀鰭第1軟条長 13.9; 胸鰭長 33.9; 腹鰭長 16.6.

体各部測定値の頭長に対する割合(%)：吻長 20.7; 眼径 33.5; 上顎長 31.3; 背鰭第1棘長 19.7; 背鰭第2棘長 35.0; 背鰭第3棘長 37.9; 背鰭第1軟条長 46.2; 臀鰭第1棘長 29.6; 臀鰭第2棘長 41.1; 臀鰭第3棘長 38.8; 臀鰭第1軟条長 44.7; 胸鰭長 108.9; 腹鰭長 53.2.

体は細長く、やや側扁する。体高は腹鰭基部で最大。吻は短くて、やや尖る。頭部背面は円く、上顎先端から眼上部まで上昇し、背鰭起部にかけてゆるやかに高くなる。背鰭棘部基底は体軸とほぼ平行で、背鰭第10棘基部から尾鰭基底上端にかけて下降する。頭部腹面はほぼ直線的、下顎先端から腹鰭基部にかけて下降し、臀鰭起部にかけ

ては体軸と平行となり、尾鰭基底下端にかけてゆるやかに上昇する。眼径が頭長の2/3ほどで眼は大きい。眼と瞳孔は正円に近い円形。眼隔域はやや膨出する。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前方に位置する。両鼻孔は円形で、前鼻孔には皮弁がある。口は大きく、下顎が上顎よりわずかに突出する。肛門は円形を呈し、臀鰭起部前方に位置する。両顎には絨毛状の歯があるが、口蓋骨や鋤骨には歯がない。前鰓蓋骨後縁は7本の鋸歯が並ぶが、下縁は円滑。鰓蓋後縁はやや尖る。頭部と体は円鱗で覆われる。側線は鰓孔上端から始まり、体背縁と平行に並び、尾鰭基部中央に達する。背鰭起部は胸鰭基部下端の直上に位置し、腹鰭起部直上より前方。背鰭棘は第1棘が短く、第4棘が最長で、そこから後方のものほど短い。最後の第10棘は第6-7棘と同程度で第1棘より長い。背鰭軟条は第1軟条が最長で、

後方の軟条ほど短い。軟条部の外縁は直線的で、後端で丸みを帯びる。臀鰭起部は背鰭第1軟条直下よりわずかに後方にあり、基底後端は背鰭基底後端より前方に位置する。臀鰭棘は第2棘が最長で、前後の棘より太い。臀鰭軟条は第1軟条が最長で、後方のもののほど短い。軟条部の外縁は直線的で、後端で丸みを帯びる。胸鰭後縁は第8軟条までは直線的。下方の6軟条は不分岐で肥厚し、やや伸長する。そのため、この部分の軟条間の鰭膜は欠刻する。伸長した胸鰭後端は臀鰭棘部をわずかに超える。腹鰭起部は背鰭第3棘基部の直下に位置する。たまた腹鰭の後端は肛門に達する。尾鰭は二叉形である。

色彩 吻と頭部は朱色。体側は淡い朱色。背鰭棘部は黒みがかった朱色で、第2-4棘の間に円い黒色斑がある。背鰭軟条部の第1-6軟条までは橙色斑点が3列あり、第7-16軟条は橙色を帯びる。腹鰭と臀鰭は半透明で不規則な朱色の斑紋がある。胸鰭と尾鰭は半透明で橙色斑点列が並ぶ。吻と頭部、体、および各鰭膜全般に黒色素胞が多く分布する。

分布 台湾、バリ島、スラウェシ島、アンボン島、オーストラリア西岸・東岸、ニューカレドニア、ニュージーランド北部、モーリシャス諸島、マダガスカル（林・萩原, 2013）。日本国内では千葉県から高知県にかけての太平洋沿岸、宇和海（愛媛県）、日向灘（宮崎県）、薩摩半島西岸（鹿児島県）、大隅諸島口永良部島・屋久島・種子島（鹿児島県）、奄美群島沖永良部島（鹿児島県）、および沖縄諸島伊江島（沖縄県）から記録されている（松浦, 1997; Senou et al., 2006; 林・萩原, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; 工藤ほか, 2019; 藤原ほか, 2020; 小枝, 2022; 工藤ほか, 2022; 本研究）。

吻と頭部は朱色。体側は淡い朱色。背鰭棘部は黒みがかった朱色で、第2-4棘の間に円い黒色斑がある。背鰭軟条部の第1-6軟条までは橙色斑点が3列あり、第7-16軟条は橙色を帯びる。腹鰭と臀鰭は半透明で不規則な朱色の斑紋がある。胸鰭と尾鰭は半透明で橙色斑点列が並ぶ。吻と頭部、体、および各鰭膜全般に黒色素胞が多く分布

する。

備考 種子島から得られた標本は、背鰭軟条数が16であり、尾鰭が深く二叉することなどの特徴が、Randall (1963) と林・萩原 (2013) が示したウイゴンベ *Cyprinocirrhites polyactis* (Bleeker, 1874) の特徴とよく一致したため、本種に同定された。本種の日本国内における分布は、「分布」の項目に示したとおりであるが、このうち、鹿児島県（薩摩半島西岸・口永良部島・屋久島・沖永良部島）と沖縄県（伊江島）からの記録は水中写真に基づく記録である。したがって、記載標本は種子島におけるウイゴンベの初めての記録であるとともに、国内における標本に基づく南限記録となる。

謝 辞

本報告を取りまとめるあたり、標本の採集に際しては、志垣水産の皆さまにご協力をいただいた。標本の作製・登録・撮影などは鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまにご協力を頂いた。以上の方々に厚くお礼を申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- 荒賀忠一. 1984. ウイゴンベ, pp. 194. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編). 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. van der Laan (eds.). 2022. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. <https://researcharchive.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp>
- 藤原恭司・上原航知・松岡 翠・Kunto Wibowo・本村浩之. 2020. 琉球列島と奄美群島初記録種を含む沖永良部島初記録の魚類 50 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 3: 30-40.

- 林 公義. 1993. ゴンベ科, pp. 835–857, 1333–1334. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 2000. ゴンベ科, pp. 909–912, 1575. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義・萩原清司. 2013. ゴンベ科, pp. 1018–1021, 2029–2030. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苦 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南岸魚類目録. 神奈川自然誌資料, 43: 97–142.
- 工藤孝浩・山田和彦・瀬能 宏. 2019. 三浦半島南西部沿岸の魚類—IX. 神奈川自然誌資料, 40: 49–58.
- 小枝圭太. 2022. ウイゴンベ, p. 171. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編). 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 329 pp., 1833 figs.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. Parts 1–3. 石崎書店, 東京. xi + 1605 pp. + 135 pls.
- 松浦啓一. 1997. ウイゴンベ, p. 429. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之. 2022. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 15. https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/20220701_JAFList.xlsx
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- 岡田弥一郎・松原喜代松. 1938. 日本産魚類検索. 三省堂, 東京. xi + 584 pp.
- Randall, J. E. 1963. Review of the hawkfishes (Family Cirrhitidae). *Proceedings of the United States National Museum*, 114 (3472): 389–451, pls. 1–16.
- Senou, H., H. Kodako, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of Ie-jima Island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92.
- 田中茂穂. 1917. 日本産魚類の三新種. *動物学雑誌*, 29: 268–269.